

八月十四日 日が暮れてから住宅団地を通って帰る。お盆に家族をあげて生家へ行ったためか、灯のついてない家が、以前は都会からの帰省者で町の人口は多くなった。今は出てゆく人も多く、常より減るのか増えるのか。

八月十五日 今年も国際児童年。皆さんは高成長時代に育ち、権利は守られてきた。世界中には栄養や医療に恵まれない五億の子どものいることを思い、日本人であることが幸せを思い、意義ある人生を確立してほしい。これは成人式における私のあいさつ。戦争で両親が苦労したことをおしつけるようなことを避けたいが、記念講演で、戦犯死刑囚の教養師の子息である花山勝友武蔵女子大教授は、戦争を深刻に受けとめることは、人間として、日本人として大切だ、と強調して感動を与えた。

八月十八日 市民運動会で今年も感じたこと。成績のよい地区は意気込みが違ふ。地区を挙げて参加し、各種目の最速の選手を出す。特に点数の多い団体競技で、五入れば器用な人、リレーは走る人、綱引きは力持ち、というように揃える。頭数だけでは負けるのが当然。クーパータナ男爵のことはでないが、参加することは意義がある。このことは、みなさんが協力して、い地域をつくることにつながる。

この日中央公民館では、断酒友の会の人たちが、ひっそりと、しかししげんに話してこまじ好ましくない記録

九月八日 衆議院解散の日。東京にいた。新聞も放送も街の話題も選挙のことばかり。そこで市民の皆さんに望みたいこと。国や県の選挙でわが市の投票率は、いつも県下町村の比りから一、三位だったが、七月の市議選のようにな成績をあげて汚名を回復したいものだ。いや、汚名のこととは第二で、八十年代の日本の進路を定める大事選挙なのだ。

九月八日 豊栄まつりは市役所主導型ではじめ、遂次市民主導型で定着してほしいと願っていたが、もろあらずに消えた。まつりは昔から住民の生活の中から自然に生まれ成長したものだ。残った葛塚まつりと民謡流しは本物。来月十五日に放送するNSTテレビの録面に、私はまつりの由来を説明するために出演。時間が短くて意を尽せなかった。

そこで防犯防犯思想を徹底してもらいたい。管内全戸に広報紙を発行する以外ないと思いついて「越岡だより」を約二か月に一回発行しています。地域にあった情報の提供、法令改正の解説、説明などを中心に出しています。私、うまくないもので、今は他人からガリを刷ってもらうことでもあります。

休みの時など、どのように「ハラブナ釣りが好きで早朝飛び出しています。近くには十二湖があります。遠くは新発田の升湖なども行きます」

奥さんの則子さんは「主人は子ばんのうでやましい人柄だと思います。人間には内面と外面があります。私は、外で取繕っている感じが好きです」と。

九月八日 衆議院解散の日。東京にいた。新聞も放送も街の話題も選挙のことばかり。そこで市民の皆さんに望みたいこと。国や県の選挙でわが市の投票率は、いつも県下町村の比りから一、三位だったが、七月の市議選のようにな成績をあげて汚名を回復したいものだ。いや、汚名のこととは第二で、八十年代の日本の進路を定める大事選挙なのだ。

市長の日記 石井新一

親類の会社にアルバイトに行っていた。酒にとりつかれて身を滅ぼそうとし、家族を泣かせたが、一念発起して立ち直った人、または家族をそこから救い出すとする主婦たちの会だ。悲惨な結果を招くアルコール中毒者は少なくない。世間体をばはかるためか、人會者少ない。私からもおすすめる。保健所と市役所の保健課でも取扱うから相談してほしい。

八月二十四日 内沼の長浦園芸組合の集出荷場竣工式。葛塚と木崎の集出荷場は大きな力をもつ農協が建てたものだが、これはわずかに十六人の組合員が建てたもの。さらに成果をあげるには、二層を研修室にしたのが特長。

八月三十一日 八月中の救急出動は九十三回で、一日平均は八回で、みんなが休んでいない日だというのに警員はほとんどこまじ好ましくない記録

古沢さんは、地区住民の悩みごと相談や、各団体の一員として積極的に住民と接触するほか、ミニ広報紙なども発行しているとか。

「そんなおかげさまで、はあません。この駐在さんでも防犯だよりというものを発行していると思いますが、そこはちょっと色をつけた程度なんです」

「もう少し、具体的な」

「はい、私の管内は平林、十二など九自治会六百二十軒あるんです。しかも、この管内には以前、犯罪が多く、その防止に警察も手を焼いていたと聞きます」

「ハラブナ釣りが好きで早朝飛び出しています。近くには十二湖があります。遠くは新発田の升湖なども行きます」

奥さんの則子さんは「主人は子ばんのうでやましい人柄だと思います。人間には内面と外面があります。私は、外で取繕っている感じが好きです」と。

「ハラブナ釣りが好きで早朝飛び出しています。近くには十二湖があります。遠くは新発田の升湖なども行きます」

奥さんの則子さんは「主人は子ばんのうでやましい人柄だと思います。人間には内面と外面があります。私は、外で取繕っている感じが好きです」と。

日常活動の業績が認められ、地元自治会から感謝状が贈られるケースは、非常に少ないと聞きます。長戸呂駐在所に勤務中の古沢さんを訪ねてみました。

「この度はおめでとうございませう。感想を一言、嬉しいことは嬉しいですが……」

「どんなことが地元の人に別れないんです。岡方の人たちは、人一倍思いやりがあるんです」

「いつから、ご当地に……」

「四十八年四月からです。長岡の警察署から長戸呂へ来て七年です。駐在所経歴は初めてだったので、あらゆる



駐在所は初めてという戸惑い、またと願う古沢さん

面でも戸惑いしました。買物にしろ、近所付き合いにしろ、一から出発でした」

「警察官になられた動機は……」

「これというものはありません。よく、制服にあこがれたとか、機動隊に入りたくてなんかないですが、私の場合は、たまたま、父が警察官で、私も警察官にならざるを得ない状況で、父の跡を継いだんです」

「はい、私の管内は平林、十二など九自治会六百二十軒あるんです。しかも、この管内には以前、犯罪が多く、その防止に警察も手を焼いていたと聞きます」

「ハラブナ釣りが好きで早朝飛び出しています。近くには十二湖があります。遠くは新発田の升湖なども行きます」

奥さんの則子さんは「主人は子ばんのうでやましい人柄だと思います。人間には内面と外面があります。私は、外で取繕っている感じが好きです」と。

「ハラブナ釣りが好きで早朝飛び出しています。近くには十二湖があります。遠くは新発田の升湖なども行きます」

奥さんの則子さんは「主人は子ばんのうでやましい人柄だと思います。人間には内面と外面があります。私は、外で取繕っている感じが好きです」と。



(17) 法花鳥屋遺跡

この中期縄文は第一砂丘の白山島、聖籠観音、第一砂丘の二本松、法花鳥屋に発見されています。法花鳥屋遺跡は田中の小路をたもとより四十程高い平坦な中島にあり、十程程高い平地にあり、試験堀があり管理会に近藤新平太先生が住んで居りました。昭和八年十月先生から畑から出土した土器片五ヶと石斧一ヶを見せいただき写真(4)の中期縄文をいただきました。中島について製堀があり(9)の石鏡をひりました。最近法花鳥屋の石山基一郎さんから管理会裏から(8)の石斧をいただいたので、この間訪ねた現場を案内していただきました。石山さんの裏は現在より三米程高い砂丘であったが前の深田を埋めたり、三條川を掘るために運び平になつたその細から(5)の中期縄文や

須恵片が出た。又裏の竹やぶを開こうとして製堀にした時大きな竹の下から顔がとび出した普通の人の倍位の頭蓋骨がでた。祖母が鉋で割って本蔵寺の自分の墓にほうむった。墓が四基あるのでこの墓かわからん。大学生が三人竹

のことをききに来たというので、三十年前の縄文時代の人骨であったかも知れません。あの付近は埋められた住宅がで昔の面影はほとんど残っておりません。

——山田 佑二記——

三四千年前の中期縄文になりますと前期縄文の爪形文や羽状文が影をひそめ長岡市馬高の火焔土器のように口辺に焔のような飾をつけたり又文様も饒線や自由ぼんぼらにつけました。この土器が三九年の新潟国体の聖火台の原型となりました。土器ではこの時代が一番豪華で世界最優秀だといわれています。これは前期とくらべて食生活が豊かになつたからです。前期時代は人も少なく個々バラバラに猟をし魚をとっていました。中期時代になると部落をつくり、団地で魚をし魚をとったりしました。木の実や芋などを石皿に粉にしてパンをつくりました。津南町の原遺跡からパン状の炭化物がでています。

野鳥の産卵、米か畑作か、はたまた水害の源、等等、話題に事欠かない福島の、その福島湖の入口に濁口橋が架かっています。

濁口橋の「門番」と言うべき前新田の本田フミさん(六八歳)に聞いてみました。

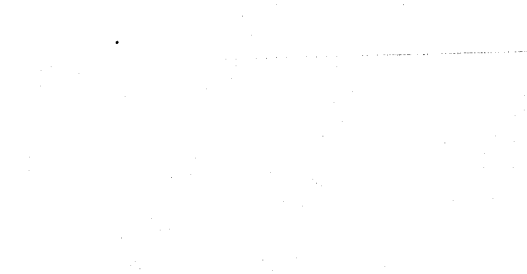
「私は二十一歳の時、笹神村藤屋から嫁いで来たんです。それ以来、濁口橋とは切っても切れない仲になっています。嫁いで来た当時は、木の太鼓橋でした。その橋があんなり高くて、向こう側の佐藤源七さんのくし(棟)しか見えなかつたんです。急な橋で、米一俵ついで渡るのがやっとでした。その橋の次は土と木で造つた土橋でした。新潟地蔵で壊れましたけど、その橋が子供たちが水あびのため、よく飛びこんでねえ。黒のスライコンをつけた河

子どもが、真黒い顔で遊んでいました。橋げたの腰板のところなんか、子供たちが座つたり、順番を待たたりして使うもんだから、水あかもつかず、ビカビカしていました」

「また、こんなこともありました。冬になると、雪がたると橋が壊れる恐れがあるんです。そこで、橋の半分を向こう側の佐藤さんが雪をのけ、こちら半分は私がのけたんです。朝早くからやつても、朝早くには終らなかつたです。一冬に何度もやりました。そして、その年のせき

（年末）が来ると、新島の区長さんの所へハンコを持って報酬をもらいに行きました。八、九十銭でしたが、正月の塩びき鮭を買うことができました。また天玉様の祭りになると、新潟近辺から、ハイカラな客が来るんです。船に乗ってくる人もいたし、ワラジをはいで徒歩でくる人もいました。それらの客を、コウレンボや十二俵積みの船で、市島まで送るんです。おなじしよ二人が船頭になって、しんげん(小遣い)をとったもんです。一回一千銭から三十銭でした。ほかにドンバス(鬼バス)や菱どりの時期になると、この橋の下から三十センチぐらいの船が出たもんです。ドンバスは一把十二銭ぐらいで、葛塚や水原市で売りました。ドンバスはおつものしんのみやいため、なますなどにして食べました」

三十三年以来、四度も水害にあった濁口橋は、四十六年に現在の橋になりました。



1. 紫雲寺町白山島 二本松
2. 聖籠観音
4-9. 法花鳥屋

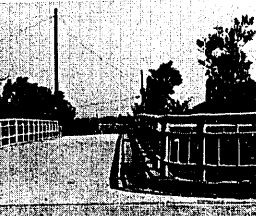
野鳥の産卵、米か畑作か、はたまた水害の源、等等、話題に事欠かない福島の、その福島湖の入口に濁口橋が架かっています。

濁口橋の「門番」と言うべき前新田の本田フミさん(六八歳)に聞いてみました。

「私は二十一歳の時、笹神村藤屋から嫁いで来たんです。それ以来、濁口橋とは切っても切れない仲になっています。嫁いで来た当時は、木の太鼓橋でした。その橋があんなり高くて、向こう側の佐藤源七さんのくし(棟)しか見えなかつたんです。急な橋で、米一俵ついで渡るのがやっとでした。その橋の次は土と木で造つた土橋でした。新潟地蔵で壊れましたけど、その橋が子供たちが水あびのため、よく飛びこんでねえ。黒のスライコンをつけた河

子どもが、真黒い顔で遊んでいました。橋げたの腰板のところなんか、子供たちが座つたり、順番を待たたりして使うもんだから、水あかもつかず、ビカビカしていました」

「また、こんなこともありました。冬になると、雪がたると橋が壊れる恐れがあるんです。そこで、橋の半分を向こう側の佐藤さんが雪をのけ、こちら半分は私がのけたんです。朝早くからやつても、朝早くには終らなかつたです。一冬に何度もやりました。そして、その年のせき



(6) 濁口橋

（年末）が来ると、新島の区長さんの所へハンコを持って報酬をもらいに行きました。八、九十銭でしたが、正月の塩びき鮭を買うことができました。また天玉様の祭りになると、新潟近辺から、ハイカラな客が来るんです。船に乗ってくる人もいたし、ワラジをはいで徒歩でくる人もいました。それらの客を、コウレンボや十二俵積みの船で、市島まで送るんです。おなじしよ二人が船頭になって、しんげん(小遣い)をとったもんです。一回一千銭から三十銭でした。ほかにドンバス(鬼バス)や菱どりの時期になると、この橋の下から三十センチぐらいの船が出たもんです。ドンバスは一把十二銭ぐらいで、葛塚や水原市で売りました。ドンバスはおつものしんのみやいため、なますなどにして食べました」

三十三年以来、四度も水害にあった濁口橋は、四十六年に現在の橋になりました。

（年末）が来ると、新島の区長さんの所へハンコを持って報酬をもらいに行きました。八、九十銭でしたが、正月の塩びき鮭を買うことができました。また天玉様の祭りになると、新潟近辺から、ハイカラな客が来るんです。船に乗ってくる人もいたし、ワラジをはいで徒歩でくる人もいました。それらの客を、コウレンボや十二俵積みの船で、市島まで送るんです。おなじしよ二人が船頭になって、しんげん(小遣い)をとったもんです。一回一千銭から三十銭でした。ほかにドンバス(鬼バス)や菱どりの時期になると、この橋の下から三十センチぐらいの船が出たもんです。ドンバスは一把十二銭ぐらいで、葛塚や水原市で売りました。ドンバスはおつものしんのみやいため、なますなどにして食べました」

三十三年以来、四度も水害にあった濁口橋は、四十六年に現在の橋になりました。